

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー



南アフリカ



インドネシア



インド

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|------------|--|--|---|---|---|---|
| | | 8/16 (8/9との比較) 今後の見通し (※4) | 8/16 (8/9との比較) 今後の見通し (※5) | 前年比 (※3) 景気の方向性 (※6) | 先週末 方向性 (※7) | | |
| カナダ  | AAA | 1.16% (▲0.11) | 80.17円 (+0.28%) | +1.3% 2019年1Q | 1.75% | 特段注目すべき経済指標の発表はなし。中国や欧州を中心とした景気の先行き懸念に伴う世界的な金利低下の影響を受け、国債利回りは低下。原油価格が上昇したこともあり、カナダドルは対円で上昇。 | CPI（消費者物価指数）や小売売上高などが発表予定。パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の講演が予定されており、その内容に注目。カナダドルは、原油価格や世界的なリスク許容度に左右される展開を想定。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  金利横ばい |  景気安定 |  据え置き局面 | | |
| ブラジル  | BB- | 6.31% (▲0.01) | 26.55円 (▲0.94%) | +0.5% 2019年1Q | 6.00% | 中銀が発表した経済活動指数が2四半期連続での低下となり、景気の先行きに懸念が生じたことや、隣国アルゼンチンペソが大幅下落したこともあり、レアルは対円で下落。国債利回りは小幅低下。 | 登録雇用創出合計や産業信頼感、消費者信頼感などが発表予定。景気動向に加え、アルゼンチンの政局などブラジル国外の変動要因からも目が離せない中、債券・為替市場ともに値動きの激しい展開を予想。 |
| | Ba2 |  金利横ばい |  金利横ばい |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| メキシコ  | A- | 6.87% (▲0.24) | 5.41円 (▲0.60%) | -0.7% 2019年2Q | 8.00% | 発表された登録雇用創出合計は前月比で増加する結果。また中銀は約5年ぶりの利下げを実施したが、市場での見方が分かれていたこともあり、メキシコペソは対円で下落。国債利回りは低下。 | 小売売上高やGDP（国内総生産）などが発表予定。依然として相対的に高い金利水準にある通貨であることには変わりないものの、米国との不法移民問題や通商問題など、外部要因に端を発する市場環境の変化に注視。 |
| | A3 |  金利横ばい |  金利横ばい |  景気安定 |  据え置き局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|------------|--|---|---|--|--|---|
| | | 8/16 （8/9との比較） 今後の見通し （※4） | 8/16 （8/9との比較） 今後の見通し （※5） | 前年比 （※3） 景気の方向性 （※6） | 先週末 方向性 （※7） | | |
| オーストラリア  | AAA | 0.88% （▲0.08） | 72.12円 （+0.56%） | +1.8% 2018年4Q | 1.00% | 発表された消費者信頼感指数は前月比で改善する内容であった他、雇用統計も概ね前月から改善傾向を示す内容。中国の経済指標は総じて低調であったものの、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは低下。 | 景気先行指数や製造業PMI（購買担当者景気指数）などが発表予定。これらの指標や米国を中心とした各国中銀の金融政策から目が離せない中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| ニュージーランド  | AA+ | 1.00% （▲0.08） | 68.38円 （+0.02%） | +2.5% 2018年4Q | 1.00% | 発表された住宅売上高は良好な内容であった一方、製造業PMIは前月比で悪化する内容。市場では次の利下げが10月または11月のいずれかであるとの見方が強まる中、国債利回りは低下。ニュージーランドドルは対円で上昇。 | PPI（生産者物価指数）などが発表予定。引き続き、オーストラリアや米国などの通商問題および米国を中心とした各国中銀の金融政策から目が離せない中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| ノルウェー  | AAA | 1.02% （▲0.16） | 11.81円 （▲0.75%） | +2.5% 2019年1Q | 1.25% | 発表された消費者信頼感指数および貿易収支はともに前月比で改善する内容。政策金利の据え置きが発表され、中銀のスタンスがややハト派となったことなどから、国債利回りは低下。ノルウェークローネは対円で下落。 | 失業率などが発表予定であるが、市場への影響は限定的と予想。市場のリスク許容度に影響を受けやすい地合いとなっており、債券・為替市場ともに海外市場を見ながらの一進一退の展開を予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気拡大 |  利上げ局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|------------|--|---|---|---|---|--|
| | | 8/16 （8/9との比較） | 8/16 （8/9との比較） | 前年比 （※3） | 先週末 | | |
| | | 今後の見通し （※4） | 今後の見通し （※5） | 景気の方向性 （※6） | 方向性 （※7） | | |
| 南アフリカ  | BB+ | 7.43% （▲0.03） | 6.95円 （+0.39%） | +0.0% 2019年1Q | 6.50% | 発表された小売売上高は市場予想を上回る内容。IMF（国際通貨基金）高官が公的債務のGDPに対する水準が同国史上最大であると懸念を示したものの、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。 | CPIなどが発表予定。ランドは8月上旬の大幅下落から前週によややく小幅反発したものの、引き続き他の新興国と同様に、世界的なリスク許容度の変動に左右される展開を予想。 |
| | Baa3 |  金利横ばい |  |  景気停滞 |  利下げ局面 | | |
| インドネシア  | BBB- | 6.80% （▲0.01） | 0.75円 （+0.55%） | +5.1% 2018年4Q | 5.75% | 発表された貿易収支は前月の黒字から赤字に転じたものの、市場予想を上回る水準。世界的にリスク回避の動きが強まる中、インドネシアルピアは相対的に堅調な値動きを示し、対円で上昇。国債利回りは小幅低下。 | 国内自動車販売などが発表予定。金融政策決定会合が予定され、市場では据え置きが予想されている中、その決定内容と中銀高官の発言に注目。債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
| | Baa2 |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| インド  | BBB- | 6.33% （+0.10） | 1.50円 （+0.08%） | +5.8% 2019年1Q | 5.40% | 発表されたCPIおよび貿易収支はともに市場予想を上回る内容。カシミール問題などで地政学的リスクの高まりが懸念されたものの、インドルピアは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | 特に注目すべき経済指標の発表はなし。地政学的リスクの高まりは懸念されるものの、景気改善に向けた継続的な施策への期待感が続く中、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。 |
| | Baa2 |  金利横ばい |  |  景気回復 |  据え置き局面 | | |

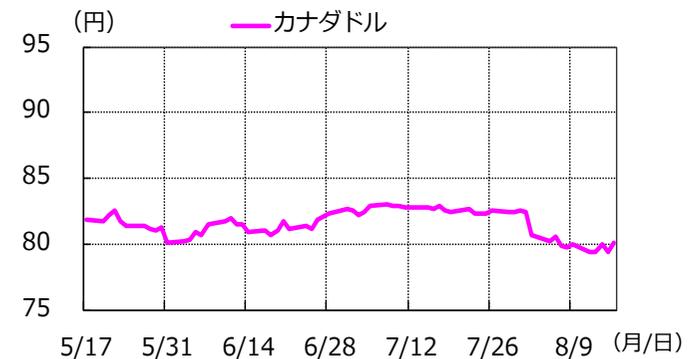
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

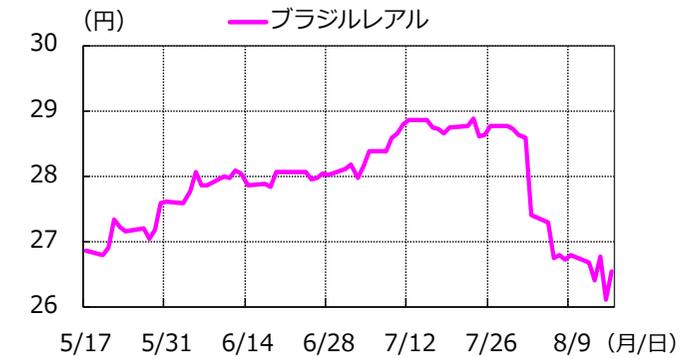
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/5/17～2019/8/16

カナダ



ブラジル



メキシコ

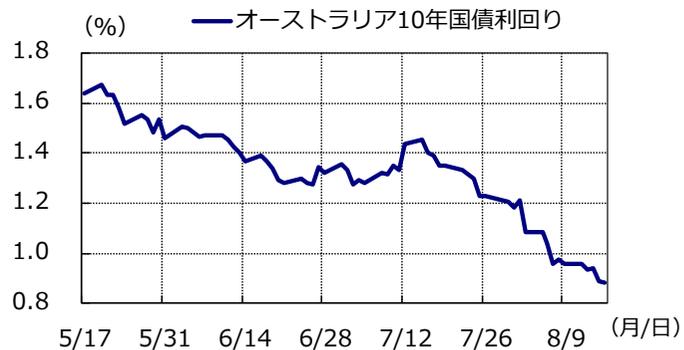


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

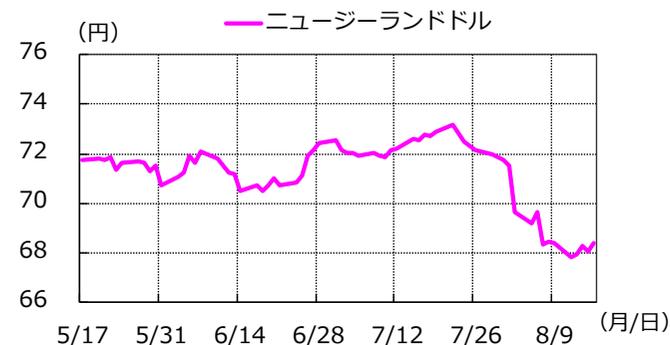
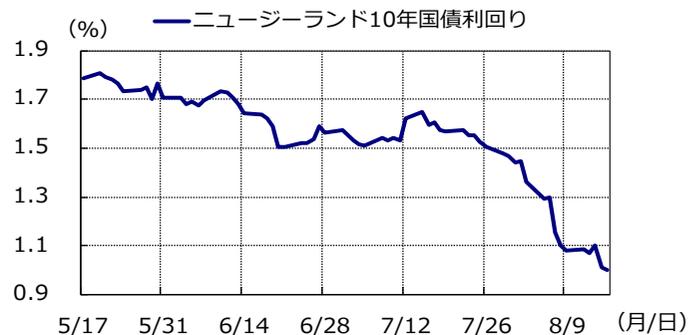
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/5/17～2019/8/16

オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

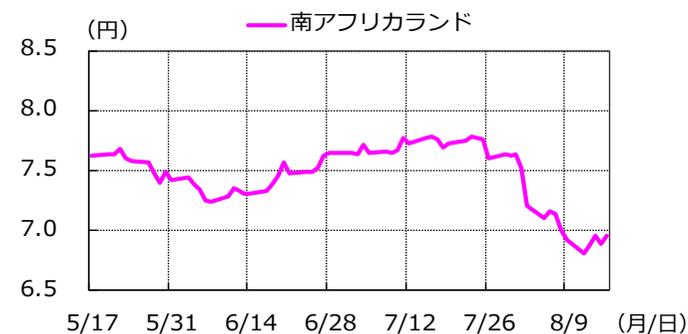


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

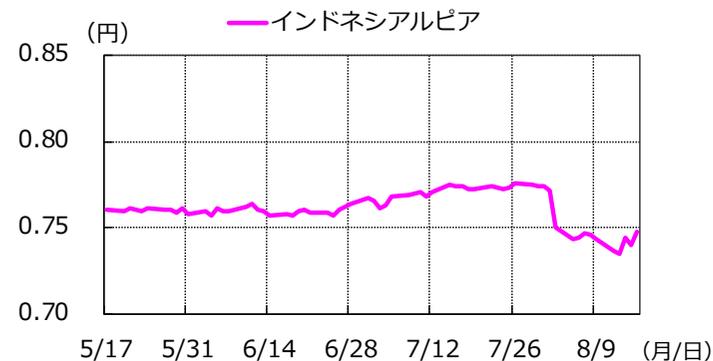
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/5/17～2019/8/16

南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%*（税込）

*消費税率が10%になった場合は、3.85%となります。

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.052%*（税込）

*消費税率が10%になった場合は、年率2.09%となります。

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。